

Title	慶應義塾大学聊齋文庫所蔵 聊齋志異鈔本残巻について
Sub Title	A survey of the transcript of the Liao-zhai Zhi-yi in Keio university's Liao-zhai collection
Author	八木, 章好(Yagi, Akiyoshi) 山田, 秀二(Yamada, Shuji)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1986
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.50, (1986. 12) ,p.132- 159
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00500001-0132">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00500001-0132</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶応義塾大学  
聊齋文庫所蔵

## 聊齋志異鈔本残巻について

八木章好  
山田秀二

慶応義塾大学聊齋文庫では蒲松齡（一六四〇—一七一五）の怪異小説集『聊齋志異』の鈔本残巻を所蔵している。故平井雅尾氏により山東淄川で蒐集された蒲松齡関係資料の中で極めて貴重な資料の一つである。以下慶応本と略称する。

慶応本は裏打補修され、卷子本の形に装丁されている。雪之巻・月之巻・花之巻の三巻に分かれ、雪之巻は《害鑷》《論鬼》《遵化署狐》《汾州狐》《巧娘》《真令》の六篇、月之巻は《珠兒》《胡四姐》《祝翁》《九山王》の四篇、花之巻は《黒獸》《聶小倩》《海公子》《張老相公》《犬灯》《毛狐》《翩翩》の七篇、三巻合計十七篇を収録している。紙は康熙末から乾隆末のものと推定される唐紙で、雪之巻十六葉、月之巻十八葉、花之巻二十四葉が貼られている。縦二二・五糎、横十三・二糎、字高二十糎、毎葉九行、毎行二十七字前後、楷書で書写されている。《害鑷》《珠兒》《犬灯》各篇の題下に「柳泉居士」、《遵化署狐》篇の題下に「松齡」、《黒獸》篇の題下に「柳泉」の印章が各々押捺されている(1)。

雪之巻の巻末には、同治元年正月の日付で孫錫嘏の跋文がある。孫錫嘏(字東泉)は咸豐六年の挙人で、淄川の蒲家とは姻戚関係にあった。跋文によれば、慶応本は孫錫嘏の従兄弟の息子に当たる蒲漸遠が蔵していたもので、孫錫嘏がそ

の中からほとんど欠損することなく残った作品数十篇を選んで一冊にまとめたものである(2)。

なお、冊子の形から卷子本の形に表装されたのは民国以降のことであり、卷子の題箋には「志異原稿」、収納用木箱の題箋には「聊齋志異遺稿」と墨書されている。しかし、『聊齋志異』の手稿本は一九四八年にすでに発見されており、慶応本を蒲松齡自筆の原稿とするのは明らかな誤りである(3)。

以下に慶応本の校勘を記す。

(校勘記)

- 一、慶応本を底本とし、手稿本・鑄雪齋鈔本・二十四卷鈔本・青柯亭刻本と対校する。
- 一、対校本は左記の影印本を使用する。
  - 『聊齋志異原稿及趙刻合編』(台北・鼎文書局一九七八年)
  - 『鑄雪齋鈔本聊齋志異』(上海・上海人民出版社一九七四年)
  - 『聊齋志異』(濟南・齊魯書社一九八一年)
- 一、対校本は手稿本を「稿本」、鑄雪齋鈔本を「鈔本」、二十四卷鈔本を「廿四本」、青柯亭刻本を「青本」と各々略称する。
- 一、字体は、特に字形が問題となる場合以外は、原則として通行の新体字に統一する。
- 一、異体字、略字、俗字は原則としてその異同を特記しない。

導化署狐

諸城兵公為導化道署中故多狐最後一樓綏者族而居之為家  
時出殃人遣之益熾官此者惟設牲禱無敢近丘公位也聞而怒之  
狐亦畏公剛烈化一嫗告家人曰幸白大人勿相仇容我三日將携細小  
避去公間亦嘿不言次日閱兵已戒勿散使扛諸營巨炮驟環樓  
千座並發數萬一樓頃刻推為平地革肉毛血自天雨而下但見  
濃塵下霧之中有白氣一縷冒烟冲空而去眾望之曰此一狐矣而  
署中自此海安後二年公遣幹僕賈銀如千數赴都將謀遷權事未就  
姑寧藏於班後之家忽有一叟詣闕告屈言妻子橫被殺戮又許公冠

導化署狐

削軍糧。蜜緣當路。現損某家。可以驗証。奉旨押驗。至班役家。宜搜  
不得。狗惟以足點地。悟日意。發之果得金。上錫有某郡解家字。已  
而覓叟則失。所兵批鄉里。鄉名亦未。其父竟亦死。公由此罹難。乃知叟  
即逃狐也。

異史氏曰。狐之崇人。可誅思矣。服而合之。亦以全吾仁公。為云  
疾之已甚者。美柳使南。而為此。豈曰狐所使哉。

汾州狐

汾州判朱某。著居廨多。狐公夜坐。有女子往來灯下。初謂是家人。頗  
未遑顧瞻。及舉目。竟不相識。而容光艷絕。心知自狐。而爰付。還

珠兒

常州民李化富有田產年五十餘無子一女名小惠容質秀美夫妻最憐愛之十四歲暴病天殞冷落庭幃蓋亦生趣始納婢延年餘生一子視如拱璧名之珠兒漸長魁梧可愛然性絕癡五六歲尚不辨菽麥言語蹇澁李亦好而不知其惡曾有眇僧募募於市輒知人閨闈於是相驚鬼神且云能生死禍福凡千百千執名以索無敢違者詣李募百緡李難之給十金不受漸至三十金僧厲色曰必百金缺一文不可李亦怒受金遽去僧忿然起曰勿悔勿悔死何珠兒心暴痛已刮床席色如土反李懼將八十金詣僧乞救僧曰

珠兒

多金大不易然山僧何能為李歸而兒已死李慟甚以狀訴邑宰拘僧訊訊鞫亦辨給無情詞答之似駸手執重令搜其身得木一小棺小幟旗五宰怒以手叠訣舉示之僧乃懼自投無數字不能杖殺之李叩謝而歸時已醺暮與妻坐床上忽一小兒偃僕入室曰阿翁行何疾極力不能得退視日慘觀當得七八歲李驚方將詰問別兒其若隱若現恍惚如烟霧宛轉間已登榻坐李推下墮地無聲曰阿翁何乃爾暫然復登李懼下妻俱奔兒呼阿父阿母嘔啞不休李入妾室急問其詳還願兒已在膝下李駭問何為答曰我蘇州人姓詹氏六歲失怙恃不為兒嫂所容遂居外祖家偶戲



異獸

聞李太公欲言某公在瀋陽宴集山顛。俯看山下有虎啣物來。以爪穴地。瘞之而去。使人探所瘞。得死鹿。乃取鹿而掩其穴。以向虎導一黑獸來。至長數步。虎前驅。若邀尊客。既至穴。獸眈眈。猶伺虎。探穴失鹿。戰伏不敢稍動。獸怒其誑。以爪擊手。虎頓。虎立斃。獸亦遂去。

異史曰。獸不知何名。然其形殊不大於虎。而何延頸受死。惧之如此。其甚哉。凡物各有所制。理不可解。如獮豸最畏械。遇身則百十成群。羅而從。無敢逆者。寧情之息。听械。或以爪編揣。甘肥膻。肥者則以片石。詭顛頂。猶戴石而伏。悚若木雞。其恐墮落。械揣詭。八次第按石取食。

異解

餘始聞散。余嘗謂貪員更似獮豸。而且搗民之肥瘠而誌之。而裂食之。而民之戢目听食。莫敢喘息。索之情亦犹是也。可哀也夫。

耳頭小情

寧米臣浙人性慷慨。魚偶自重。每對人言生平之色。適赴金華。至北廓。解裝。蘭若寺中。殿塔壯麗。然安達高。沒人似。絕行。祭東西僧舍。雙扉。庭掩。惟南一小舍。局鍵如新。又顧殿東隅。修竹拱把。階下有巨池。野鷗已花。意甚樂。其幽杳。會與子使某臨城。舍價昂。思便留。止。適散步以待。僧曰。暮有士人來。致南。能趨為孔。且告以息。士人曰。此前先房。主僕亦僑居。能甘荒。後日暮。惠教幸甚。寧喜籍。葉代末。友板作。凡為久。

雪之卷

《窖鏹》（鑄本・廿四本・青本《宮夢弼》附則）

瞋目作怒 青本無「瞋」、並「怒」作「努」

不共戴天 鑄本・青本無「共」

不能具棺木 青本無「木」

遂藁葬 鑄本・廿四本・青本「葬」下有「焉」

《論鬼》

獲大寇數十名 廿四本「寇」作「盜」

鬼聚為崇 稿本・鑄本・廿四本「崇」作「崇」

輒被曳入 鑄本無「被」

忽聞群鬼惶竄曰 鑄本「惶」作「愧」

炤得厥念無良 廿四本「炤」作「照」

致嬰雷霆之怒 鑄本・廿四本「嬰」作「櫻」

魍魎之心 稿本・鑄本・「魍魎」作「罔罔」

髑髏之血 廿四本「髑」作「骷」

死猶惡聚 稿本・鑄本・廿四本「惡聚」作「聚惡」

跳跟成群 稿本・鑄本・廿四本「成群」作「而至」

披髮而至 稿本・鑄本・廿四本「而至」作「成群」

彼丘陵三尺外 鑄本・廿四本「丘」作「邱」

《遵化署狐》

諸城丘公 鑄本「丘」作「邱」

丘公蒞任 鑄本「丘」作「邱」

聞而怒之 鑄本無「而」

諸營巨炮 廿四本「炮」作「砲」

自此遂安 鑄本「遂」作「平」

翁惟以一足点地 廿四本「翁」作「叟」

已而覓叟 廿四本「覓」作「覺」

狐之崇人 廿四本「崇」作「崇」

《汾州狐》

久如夫妻之好 廿四本「妻」作「婦」

君秩將遷 鑄本「將」作「當」

曰目前 鑄本「曰」上有「答」、青本「曰」作「答云」

而弔者在閭 鑄本・青本無「而」

大夫人訃音 鑄本・廿四本・青本「大」作「太」

客去乃來曰 青本無「曰」

今何以云 鑄本「云」作「渡」

女曰妾所謁非他 鑄本・廿四本・青本無「女」、並「妾」

作「曩」

以君故特請之 鑄本・廿四本・青本「以」上有「妾」

十日往復 鑄本「日」作「天」

可暫依耳 鑄本・廿四本・青本「可」上有「故」

《巧娘》

陰纜如蚤 鑄本・青本「纜」作「裁」

無以女女者 青本作「無女以女」

廉從師誦師偶他出 鑄本作「廉從師偶他出」

適門外有猴戲者 鑄本無「有」

廉視之 青本「視」作「觀」

見一白衣郎 鑄本「白」作「素」、鑄本・廿四本・青本

「郎」上有「女」

偕一小婢出其前 鑄本・廿四本・青本無「一」

得無欲如瓊否 廿四本・青本「無」作「毋」、鑄本「否」

作「乎」

詰其所為 鑄本無「所」、青本「所」作「何」

有尺一書 廿四本作「有尺書一函」

望北行四五里 青本「望」作「往」

姓名居里 廿四本「居里」作「里居」

見道側一墓 鑄本無「一」

忽聞人声在下 鑄本無「人」

俯看之 鑄本・青本「看」作「瞰」

双鬟挑画燭 鑄本「鬟」作「環」

華故所贈团茶 鑄本・廿四本「故」作「姑」

毛髮直豎 青本「直」作「森」

近臨一睇 青本「睇」作「諦」

反恚為喜 青本「喜」作「歡」

姿態艷絕 青本「姿」作「恣」

亦非土音 鑄本無「非」

願在床下 鑄本・廿四本・青本「床下」作「下床」

女笑云佳客客相逢 鑄本「云」作「曰」、鑄本・廿四本・



青本無一「客」

惶恐不敢自舒 廿四本「惶」作「遠」

悄悄出衾去 廿四本「悄悄」作「悄悄」

俄聞哭聲 青本「聞」上有「隱」

我自嘆吾命耳 鑄本無「自」

可郎醒 鑄本·廿四本·青本「可」下有「喚」

無所復之 鑄本無「所」

一婦人排闥入 鑄本「闥」作「闥」

婢白華姑來 青本「白」作「曰」

夜一少年郎寄此宿 鑄本「宿」作「夜」

啼淚未乾 青本「啼」作「涕」

悲啼不倫 青本「啼」作「涕」

將勿郎君粗暴也 廿四本「勿」作「毋」、廿四本·青本

「也」作「耶」

婦將捋衣視生 鑄本·青本「將」作「欲」

三兒家報 鑄本「兒」作「姐」

幸未遣之去 青本「未」作「不」

導生入東廂 青本「入」作「於」

探手於袴 青本「袴」作「勝」

猶可為力 青本無「力」

挑灯徧翻箱篋 青本「挑」上有「乃」

密囑勿叱 鑄本·廿四本·青本「密」作「秘」

比五更 鑄本「比」上有「將」

婦即入 鑄本無「即」、廿四本「入」下有「室」

以炊餅納生 鑄本·青本「生」下有「室」

將留召三娘來 鑄本「召」作「招」

延及夜分 青本「及」作「至」

巧娘笑曰 青本「曰」作「云」

並坐堂中 鑄本·青本「坐」作「出」

私囑生云 鑄本「云」作「曰」

既於枕上問女 鑄本「於」作「以」

邑邑不暢 廿四本「邑邑」作「悒悒」

賚恨入冥 鑄本無「恨」、並「入」作「如」

疑三娘亦鬼 鑄本多加一「亦」

独居無偶 鑄本「偶」作「耦」

女云無懼 青本「云」作「曰」、並「無」作「勿」

独恨自猷無隙 鑄本無「猷」

生蘊籍 鑄本·青本「籍」作「藉」

邊室隔扉 鑄本「邊」作「繞」、青本「室」作「屋」

流蕩無所 鑄本「無」上有「棲」

曾不少秘惜 青本「曾不」作「不曾」

華姑掩入 廿四本「掩」上有「与三娘忽」

華姑噴目 青本「噴」作「噴」

笑逆自承 青本「逆」作「迎」

華姑益怒 鑄本無「姑」

巧娘故晒曰 鑄本無「娘」

三娘見巧娘与母苦相抵 鑄本·廿四本·青本「巧娘与母」

作「母与巧娘」

拗怒為喜 鑄本無「怒」

晝夜防閑 鑄本·廿四本「防閑」作「閑防」

兩情不得自展 青本「得」作「能」

早訂永約 青本「訂」作「定」

送至舟上 鑄本無「送」

携兩女子僦屋 鑄本無「子」、青本「女子」作「兒」

正覓子不得 鑄本·廿四本·青本無「正」

心甚焦慮 鑄本·廿四本·青本「心甚」作「正切」

致華氏訂 鑄本·廿四本·青本「致」上有「兼」、並「訂」

上有「之」

意欲炫聞翁媪 鑄本「炫」作「駭」

薄觀之 廿四本「觀」作「視」

呼婢研詰 鑄本·廿四本·青本「詰」作「究」

似有所伺 青本無「所」

何怪公子魂思 鑄本無「公」

末陳巧娘耗 鑄本「耗」上有「死」

至新迎之夜 青本無「至」、鑄本·廿四本·青本「新」作

「親」

答云已投生北地矣 青本「答」作「笑」

詰之答云 青本「答」作「笑」

矣末使聞 青本「未」下有「嘗」

將無是 廿四本「無」作「毋」、青本「是」下有「姊」

向欲欲相告 鑄本·廿四本·青本無「欲」

叩墓木而呼 鑄本「叩」作「呼」、廿四本「木」作「柏」

見女捧嬰兒 鑄本·廿四本「女」下有「郎」、青本「女」

下有「娘」、並「捧」作「紉」

探問誰氏子 鑄本·廿四本·青本「探」下有「懷」

誕三月矣 青本「月」作「日」

生嘆曰 青本無「嘆」

乃與同輿航海而歸 鑄本「輿」作「與」

既竣而歿 鑄本·青本「歿」作「卒」

十四游泮 青本「游」作「入」

地名遺脫 青本「脫」作「蛻」

亦未知所終焉 鑄本「焉」作「矣」、青本無「焉」

《與合》

忘其姓名 鑄本·廿四本「名」作「字」

衣以錦藏機如生 鑄本無「衣以」

民居歛資為會 鑄本·廿四本「民居」作「居民」、鑄本

「資」作「貲」

雜鹵薄 鑄本·廿四本「薄」作「簿」

鼓吹行具作 鑄本·廿四本「具」作「且」

習為俗 鑄本「為」上有「以」

指神而責數之 廿四本「神」作「像」、鑄本無「數」

淫昏之神 鑄本·廿四本「神」作「鬼」

股折尋卒 鑄本·廿四本「股折」作「折股」

月之卷

《珠兒》

容質秀美 青本「質」作「貌」

最憐愛之 青本「憐愛」作「愛憐」

言語蹇澀 青本「蹇」作「強」

募於市 稿本·鑄本·廿四本·青本「募」下有「綠」

執名以索 鑄本「以」作「一」

必百金 稿本·青本「金」作「緡」

李亦怒 鑄本無「亦」

受金遽去 稿本·鑄本·廿四本·青本「受」作「収」、

鑄本「遽」作「而」

僧忿然起 稿本·青本「起」上有「而」

巴刮床席 廿四本「巴」作「爬」

將八十金詣僧乞救 鑄本「乞」作「求」

李婦而兒已死 鑄本「婦」作「回」

李慟甚 廿四本「慟」作「痛」

以狀訴邑宰 稿本·青本「訴」作「愬」

辨給無情詞 青本「辨」作「辯」

小旗幟五 鑄本「幟」作「幟」

以手盪訣拳示之 青本「示」作「視」

時已醺暮 稿本·廿四本·青本「醺」作「曛」

与妻坐床上 鑄本無「坐」

已登榻坐 鑄本無「坐」

急閣其扉 稿本·鑄本·廿四本·青本「閣」作「闔」

我蘇州人姓詹氏 鑄本無「姓」、並「詹」作「詹」

幸賴阿翁昭雪 青本「阿」作「我」

為兒設褥 稿本·鑄本·廿四本·青本「褥」上有「床」

晨來入闈閣 稿本·鑄本·廿四本·青本「入」上有「出」、

鑄本「闈閣」作「戶庭」

如家生 鑄本「生」作「兒」、青本此句作「了不異人」

聞妾哭子声 青本「哭子」作「悲痛」

問珠兒死幾日 鑄本「珠」作「殊」

試發塚啓 稿本·廿四本·青本「啓」下有「視」、鑄本

「啓」作「起」、其下有「視」

兒当得活 鑄本「得活」作「活之」

方此怛怛 鑄本「此」作「深」

失兒所在 鑄本「失兒」作「兒失」、廿四本「失」上有

「已」

湯已而汗汗已遂起 鑄本無「而汗汗已」

迴異平昔 稿本·青本「平」作「曩」

名呼哥子 稿本·青本無「呼」

昨迫阿父不及 鑄本「阿」世「我」

今在冥司 稿本·青本「司」作「間」

与姜員外作義嗣 稿本・青本「与」作「為」

亦甚優游 鑄本無此句

渠与阿翁 青本「翁」作「父」

此事人無知者 鑄本「人無」作「無人」、並無「知」

姊在冥中大好 稿本・青本「姊」上有「惠」、鑄本「冥

中」作「陰司」

嫁於楚江王小郎子 稿本・鑄本・廿四本・青本「於」作

「得」

一出門則十百作呵殿聲 稿本・鑄本・廿四本・青本「則」

作「便」

胡不一歸寧 稿本・鑄本・廿四本・青本「胡」作「何」

与骨肉無閔切 稿本・青本「与」上有「都」

倘有人細述前生 青本無「人」、並「生」下有「者」

托姜員外 稿本・青本「托」作「託」

黃緣見姊 稿本「姊」下有「姊姊呼我坐珊瑚床上」、青

本「姊」下有「姊呼我坐珊瑚床上」

言父母懸念 稿本・廿四本・青本「言」上有「与」、鑄

本「言」上有「便与」

渠都如眠睡 廿四本「睡」下有「兒」

血腕綾子上 青本「腕」作「浣」

僕從太繁 稿本・鑄本・青本「太」作「大」

姊姊且憩坐 廿四本無「姊」

焚紙醮飲 青本「醮」作「酬」

綠錦被 鑄本無「錦」

言笑如生平 鑄本「如」上有「猶」、稿本・鑄本・廿四

本・青本「生平」作「平生」

將借妹与家人共語 稿本・青本「妹」下有「子」、鑄本

「妹」作「姊」、稿本「語」作「話」

忽仆地悶絕 青本「仆」作「撲」

踰刻方醒 稿本・青本「方」作「始」

与阿嬀別 鑄本「阿」作「我」

頓鬢鬢白髮 鑄本無「鬢」

直達母所 稿本・鑄本・廿四本・青本「母」作「李」

勞父母哀念 廿四本「念」作「愛」

罪莫大焉 稿本·青本作「罪何可贖」

珠兒奔告曰 稿本·鑄本·青本「告」作「入」

移時乃醒 稿本·青本「醒」作「甦」

医藥罔效 鑄本「罔」作「無」

既暮兒趨入曰 鑄本「兒」作「而」

且退去 稿本·青本「退」作「避」

俄傾鼓掌大笑 稿本·鑄本·廿四本·青本「傾」作「頃」、

稿本·青本「大」作「而」

見姊夫來 稿本·青本「見」作「聞」、青本「來」作「至」

問姊起居 青本「姊」下有「夫」

既而拍手曰 青本「手」作「掌」

出之門外 稿本·廿四本·青本「之」作「至」

兒甚慧 稿本「慧」作「惠」

十八歲入邑庠 稿本·青本無「歲」

里中有病者 稿本·鑄本·廿四本·青本無「有」、鑄本

無「者」

神責我綻露 稿本·鑄本·廿四本·青本「神」上有「鬼」、

鑄本「綻」作「洩」

《胡四姐》

尚生太山人 青本「太」作「泰」

忽一女子踰垣來 青本「忽」下有「有」

亦不復問 稿本·鑄本·青本「問」上有「置」、廿四本

「問」上有「致」

矚盼不轉 青本「盼」作「眸」

生曰我視卿如紅葉碧桃 稿本·鑄本·廿四本·青本無

「生」、稿本·青本「葉」作「葉」

雖竟夜視不為厭也 稿本·青本「雖」作「即」、鑄本「不

為」作「勿」

三姐曰妾陋質遂蒙青盼如此若見我家四妹不知如何顛倒生

意傾動恨不一見顏色長跪哀請 稿本無「姐」、青本「三

姐」作「女」、鑄本無從「此」到「長」二十四字、青

本無「蒙」、並「如」作「若」、稿本·廿四本·青本

「我」作「吾」、廿四本「如何」作「何如」、青本「如

何顛倒」作「顛倒何似」、稿本·廿四本·青本「意」作

「益」、稿本「跪」作「跽」

果偕四姐來 鑄本「果」作「當」、並「來」下有「明日」

果「至」

顧三姐曰 稿本「姐」作「姊」

姊遂去 青本「姊」作「姐」

備盡歡好 廿四本「盡」作「極」

無復諱隱 稿本·鑄本·廿四本·青本「諱隱」作「隱諱」

言已為狐 稿本·鑄本·青本「言已」作「自言」

我姊狠毒 稿本·鑄本·廿四本·青本「我」作「阿」、

青本「姊」作「姐」

罔不斃者 鑄本「罔」作「無」

當書一符粘寢門 廿四本「粘」作「貼」

遂書 稿本·鑄本·廿四本·青本「書」下有「之」

不憶引綫人矣 廿四本「憶」作「意」

汝二人 稿本·鑄本·廿四本·青本「二」作「兩」

乃徑去 鑄本「徑」作「經」、青本「徑」作「逕」

約以隔夜 鑄本「以」作「一」

生偶出門 鑄本無「生」

山下故有胡林 稿本「胡」作「榭」、青本「胡林」作「榭」

木」

何必日沾沾恋胡家姊妹 青本無「日」

既而滅燭登床 稿本·鑄本·青本「既」作「繼」

既明始起 稿本·青本「明」作「曙」

已入帷幕 稿本·鑄本·青本「帷」作「幃」

婦乍睹 鑄本「乍」作「作」

倉惶而遁 稿本·青本「惶」作「皇」

二女逐叱曰 鑄本「逐」作「遂」

與騷狐匹偶 稿本·鑄本·廿四本·青本「匹」上有「相」

三姐從旁解免 稿本·鑄本「姐」作「姊」

當有繼吾弟亡者 青本無「有」、鑄本「亡」上有「而」

生與女密 稿本·青本「密」下有「通」

黑霧四圍 稿本·青本「圍」作「團」

堅留客飯 鑄本無「容」

近瓶竊聽 稿本「聽」作「視」、青本無「聽」

在瓶中言曰 鑄本無「曰」

生意感動 稿本·青本「意」作「益」

以針刺脬作孔 稿本·鑄本「孔」作「空」

余即出矣 稿本·鑄本·青本「余」作「予」

生如其言 稿本·青本「言」作「請」

見旗橫地 鑄本「橫」作「垂」、青本「橫」作「倒」、並

「地」下有「上」

生就近之 稿本·青本「就近」作「近就」

妾今非昔比 青本無「今」

瞥然不見 稿本·鑄本·廿四本·青本作「不知所在」

不応再履塵世 稿本·青本「不」上有「本」

特報撤瑟之期 稿本·青本「特」作「敬」

渡君爲鬼仙 稿本·鑄本·廿四本·青本「渡」作「度」

亦無苦也 青本無「也」

李文玉之戚好 稿本·鑄本·廿四本·青本「李」上有

「友人」

濟陽祝村有祝翁者 廿四本無「祝村」

拚不復返 鑄本「返」作「還」

一副老皮骨 鑄本「副」作「幅」

無復生趣 廿四本無「復」

新蘇妄語 廿四本「蘇」作「甦」

殊未深信 廿四本「深信」作「爲異」

如此亦善 稿本·青本「善」作「復佳」

如何便死 稿本·廿四本·青本「死」上有「得」

可速料理 稿本·青本「速」下有「作」

延數刻而入 廿四本「延」下有「遲」

翁命速妝 廿四本「速妝」作「速速理妝」

翁催益急 鑄本「催」作「推」

裙妝以出 廿四本無「裙」、並「出」作「至」

移首於枕 廿四本「於」作「那」

是何景像 稿本·青本「像」作「象」

子女見翁燥急 稿本·廿四本·青本「女」下有「輩」、

廿四本「燥」作「燥」、青本「燥」作「躁」

《祝翁》



勸媼姑從其言 稿本·廿四本·青本「言」作「意」

俄視媼笑容忽斂 鑄本「視」作「時」

衆始近視 廿四本「始」作「乱」

試翁亦然 廿四本「試」作「視」

康熙二十一年 廿四本「康」上有「時」

則呼令去 鑄本無此句

抑何其暇也 青本無「抑」

所最不忍者 稿本·鑄本·廿四本·青本「忍」下有「訣」

分香壳履 稿本·鑄本·廿四本·青本作「壳履分香」

#### 《九山王》

曹生李姓者 鑄本·廿四本·青本「生」作「州」

但勿煩慮 鑄本·廿四本·青本「勿」作「無」、青本「煩」

作「顧」

遣兒女輩作黍 鑄本「兒」作「小」

則入園中 廿四本「則」作「步」

簾幕中作笑語聲 鑄本無「簾」

燂亘霄漢 青本「燂」作「燂」、廿四本「亘」作「騰」

嗚啼嗶慟之聲 鑄本·廿四本·青本「慟」作「動」

顏色慘動 青本「動」作「慟」

荒園歲報百金 鑄本「歲報」作「報歲」

何忍遂相族滅 青本「族」作「絕」

深相結 青本「相」下有「訂」

使譚言者謂大王真天子 青本無「譚」

造甲兵 鑄本「兵」作「冑」、青本「甲兵」作「兵甲」

無不願執鞭勒 鑄本「無」作「莫」

從戟下 青本「戟」作「戲」

急告於亮 鑄本·青本「急告」作「告急」

解赴江南 鑄本·廿四本·青本「解」下有「馬」

弥滿山谷 青本「滿」作「漫」

不知其何往 鑄本·廿四本·青本「其何往」作「所往」

窘急無術 青本「急」作「極」

朝廷之勢大也 鑄本「也」作「矣」

妻孥戮之 青本無「妻」、鑄本·廿四本·青本「孥」作

「孥」、廿四本「戮之」作「為戮」

蓋以族滅報李也 廿四本「李」下有「生」、並「也」作「云」

閉門科頭 青本「閉門」作「箕踞」

亦何由族滅哉 鑄本·廿四本·青本無「滅」

繼而疑 青本「繼」作「既」

迨至身名俱殞 青本「殞」作「隕」

而始知其誤也 鑄本無「知」

大率類此 鑄本·廿四本·青本「此」下有「矣」

### 花之卷

#### 《黑獸》

某公在瀋陽 鑄本「某」作「其」

宴集山顛 廿四本「宴」作「譙」、鑄本·廿四本「顛」作「巔」

#### 「巔」

俯看山下 稿本·鑄本·廿四本·青本「看」作「瞰」

有虎踞物來 青本「啣」作「銜」

掩其穴 稿本·廿四本·青本「掩」上有「虛」

虎尊一黑獸來 稿本·鑄本·青本「來」作「至」

不敢稍動 稿本·鑄本·青本「稍」作「少」

然聞其形 稿本·鑄本·青本「聞」作「聞」

揣民之肥瘠而誌之 稿本·鑄本·青本「誌」作「志」

#### 《聾小倩》

南一小舍 鑄本無「南」

階下有巨池 青本無「階」

意甚樂其幽杳 青本無「甚」

學使案臨 青本「案」作「按」

且暮惠教 稿本·青本「暮」作「晚」

籍藁代床 稿本「籍」作「藉」

是夜月明高潔 鑄本無「夜」

赴試者 稿本·青本「者」作「諸生」

聽其聲音 稿本·鑄本·廿四本「聲音」作「音聲」

殊不類浙 青本「殊」作「絕」

插蓬沓 青本「沓」作「首」

給背甕鐘 廿四本「鐘」作「腫」

媼曰殆好至矣 稿本·廿四本「曰」作「云」

有一十七八女子來 鑄本無「一」

齊地不言人 青本「吝」作「背」

我兩個正談道 鑄本無「談」

俏來無迹響 青本「俏」作「悄」

女子笑曰 稿本·青本無「子」

當呼南舍生知 稿本無「呼」

至戶外忽返 稿本·青本「忽」作「復」

黃金一錠 稿本·青本「錠」作「錠」

污我囊袋 稿本「我」作「吾」

一僕死 稿本作「僕一死」

小倩姓聶氏 廿四本「小」上有「妾」、稿本無「小」

葬於寺側 稿本·青本無「於」、鑄本「側」作「中」

被妖物威脅 稿本·青本「被」上有「輒」

歷役賤務 青本無「歷」

甯駭求計 鑄本「甯」作「生」

何不惑 稿本·青本「惑」下有「燕生」

不敢近 鑄本「不」上有「固」

問何以迷人 鑄本·廿四本「問」上有「又」、稿本·青本「何以迷人」作「迷人若何」

曰狎昵我者 稿本無「曰」、青本「昵」作「暱」

茫然若迷 稿本·鑄本·廿四本·青本無「然」

又或以金 鑄本「或」作「惑」

妾墮玄海 青本「玄」作「元」

但記取白楊之上 鑄本無「取」

既邀同宿 稿本·鑄本·青本「邀」作「約」

幸無翻窺篋襖 稿本·鑄本·青本「無」作「勿」

既而各寢 鑄本無「而」

以箱篋置窓上 稿本「篋」作「筐」

颯然一射 稿本「颯」作「颯」、青本「颯」作「歛」

捧篋檢徵 青本無「徵」

甯大奇之 鑄本「奇」作「呼」

告以所見 稿本·青本作「以所見告」

鳥巢其顛 廿四本「顛」作「巔」

趨裝欲歸 稿本·鑄本·青本「趨」作「趣」

情意殷渥 稿本·鑄本·廿四本·青本「意」作「義」

從授其術 鑄本「授」作「受」

非此道中人也 青本無「此」

甯乃託有妹葬此 鑄本無「乃」

庶不見凌於雄鬼 稿本·青本「凌」作「陵」

捋識姑娘 青本「姑娘」作「嬢姑」

肌映流霞 鑄本「映」作「映」

嬌艷尤絕 鑄本無「艷」

母戒勿言 青本「勿」作「毋」

恐所駭驚 廿四本作「恐致駭駭」、青本作「恐所驚駭」

願執箕箒 稿本·廿四本「箒」作「帚」

不敢令有鬼耦 稿本·青本「耦」作「偶」

入房穿榻 青本「榻」作「戶」

不為設床褥 鑄本「褥」作「褥」

室有劍氣 青本「有」作「中」

向道途之不奉見者 鑄本「之」作「中」

悟為革囊 青本「悟」上有「已」、鑄本「為」作「而」

坐燭下 稿本·鑄本·廿四本·青本作「就燭下坐」

強半遺忘 青本「忘」作「亡」

殊怯荒暮 稿本·鑄本·廿四本·青本「暮」作「墓」

兄妹亦宜遠嫌 青本「妹」作「弟」

顰蹙而欲啼 廿四本「顰」上有「眉」、青本「顰」上有

「容」、鑄本無「而」

無不曲承母志 鑄本「承」作「成」

始慘然去 鑄本「去」作「出」

母劬不堪 稿本·青本「堪」上有「可」

留與同臥 鑄本「與」作「於」、稿本·鑄本·廿四本·

青本「臥」下有「起」

未嘗飲食 稿本·青本「飲食」作「食飲」

不之辨也 鑄本「之」作「知」

陰有納女意 鑄本「陰」作「隱」

女微窺之 鑄本「窺」作「知」

乘間告母曰 鑄本無「母」

當知兒肝膈 鑄本無「兒」、稿本·青本「膈」作「鬲」

正以公子光明磊落 稿本·鑄本·青本「正」作「止」

母亦知無惡 青本「無」上有「其」、廿四本「惡」下有

「意」

但懼不能延宗嗣 鑄本無「但」

一堂尽怡 稿本·鑄本·青本「怡」作「怡」

善画梅蘭 稿本·鑄本·廿四本·青本「梅蘭」作「蘭梅」

恒什襲以為榮 稿本·鑄本·青本「恒」作「藏」

挽頸窓前 稿本·鑄本·廿四本·青本「挽」作「俛」、廿

四本「頸」作「首」

惆悵若失 稿本·鑄本·青本「惆」作「怊」

絨置他所 鑄本「置」作「致」

取挂床頭 鑄本「挂」作「掛」

反覆審視 鑄本「反」作「返」、稿本「覆」作「復」

將盛人頭者也 青本無「頭」

敵敗至此 鑄本「敵」作「弊」

肌猶粟慄 青本「粟慄」作「粟悚」

約甯勿寢 鑄本無此句

忽有一物 稿本·鑄本·青本「忽」作「歛」

如飛鳥至 稿本·青本「至」作「墮」

電目血舌 青本「舌」作「口」

至門卻退 稿本·鑄本·廿四本·青本「退」作「步」

似將抓裂 青本「抓」作「爪」

頓縮如故 鑄本「縮」作「索」

拳一男 稿本「拳」上有「女」

《海公子》

四時不凋 青本「凋」作「彫」

島中古無居人 稿本·鑄本·廿四本·青本「島」上有

「而」

自棹扁舟 稿本·鑄本·廿四本「棹」作「掉」

反復留連 青本「留」作「流」

開尊自酌 廿四本「尊」作「樽」

我膠娼也 稿本·鑄本「娼」作「倡」

女言詞温婉 鑄本「詞」作「辭」

蕩人心志 稿本·青本「心」作「神」

忽聞風蕭蕭 廿四本「風」下有「声」、青本「蕭蕭」作

「蕭蕭」

粗於巨桶 青本「於」作「如」、稿本·青本「桶」作「節」

障身大樹後 稿本「障」作「幃」

腰中佩荷內 稿本·青本「荷」下有「囊」、並無「內」

有毒狐葉 鑄本「狐」作「孤」

破裏堆掌中 鑄本「中」作「上」

大病月余 廿四本「余」下有「方瘥」

《張老相公》

張老相公晋人 青本「公」下有「者」

張先渡江 青本「先」作「老」

江中有鼃怪 青本無「中」

以大箛拳投之 青本「箛」作「鉗」

波湧如山 稿本·鑄本·青本「湧」作「涌」

禱之即応 稿本·鑄本·廿四本·青本「即」作「輒」

《犬灯》

入園中化為女子 鑄本「園」作「院」

還臥故所 廿四本「所」作「処」

陽寮以觀其變 廿四本「陽」作「伴」

遂共止宿 稿本·青本「止宿」作「宿止」、鑄本「止宿」

作「宿之」

不知墮自何時 鑄本·廿四本「知」作「覺」

展軫無策 廿四本「展」作「輒」

夜來女至 稿本·青本「來」作「分」、廿四本「來」作

「問」

何肯為此 廿四本「肯」作「忍」、稿本·鑄本「為此」

作「此為」

女急起 稿本·鑄本·廿四本·青本「起」作「啼」

已忘旧好 鑄本無「旧」

既恋恋有故人意 廿四本「既」上有「今」

亦不汝怪也 廿四本無「也」

高梁正茂 青本「高梁」作「膏粱」、鑄本「梁」作「梁」

肴酒已列 稿本·鑄本·廿四本·青本「肴酒」作「酒肴」

《毛狐》

芸田間 稿本・青本「芸」上有「偶」

越陌而過 廿四本「過」作「來」

婦亦微納 青本「納」作「笑」

笑曰青天白日 青本無「笑」

黃昏我当至 稿本・鑄本・青本「黃昏」作「昏夜」

具告之 鑄本「具」作「俱」

遂相愛悅 稿本・鑄本・青本「愛悅」作「悅愛」、廿四

本「愛悅」作「歡愛」

腹肌嫩甚 稿本・鑄本・廿四本・青本「腹」作「膚」

細毛遍体 稿本・鑄本・廿四本・青本「遍」作「徧」

遂戲相詰 廿四本「戲相」作「相戲」

既蒙繾綣 廿四本「既」作「幸」

馬索金 鑄本無此句

婦故愕然曰 稿本・鑄本・廿四本・青本無「然」

所乞或勿忘耶 廿四本「乞」作「祈」、並「勿」作「未」、

青本「勿」作「又」、鑄本「耶」作「也」

白金二錠 鑄本・廿四本・青本「錠」作「錠」

約五六金 廿四本「金」作「兩」

以我蠢陋 鑄本「蠢陋」作「陋質」

固不足以奉上流 廿四本無「固」

即為国色 廿四本作「即国色也」

請以一婦之資相餽 稿本・廿四本・青本「資」作「貲」、

稿本「餽」作「餽」

女曰一二日自当有媒來 稿本・鑄本・廿四本・青本「女」

作「婦」、廿四本「一二」作「二三」、並「自当」作

「当自」

姿貌何如 稿本・廿四本「何如」作「如何」

意在国色 稿本・鑄本・廿四本・青本「意」作「思」、

並無「在」

自当是国色 廿四本無「是」、並「国色」作「傾城」

何能買婦 廿四本「能」作「足」、並「買」作「聘」

月老注定 稿本・鑄本・青本「注」作「註」、廿四本「注」

作「配」

問何遽言別 稿本・鑄本・廿四本・青本「問」上有「馬」

使君自有婦 廿四本無「使」

搪塞何為 鑄本·廿四本「搪」作「唐」

天明別去 稿本·鑄本「別」作「而」、廿四本「別」作

「遂」、青本「別去」作「而歸」

授黃末一刀圭曰別後恐病服此可療 廿四本無此十五字

聘金幾何 廿四本「聘」上有「問」

而必欲一親見其人 廿四本無「而」、並無「親」

不肯銜露 廿四本「銜」作「炆」

相機便行 稿本「便行」作「叵便」、青本「便行」作「因

便」、鑄本無「行」

既至其村 廿四本無「既」

使馬候村外 稿本·青本「候」作「待」、稿本·鑄本·

青本「村」上有「諸」、廿四本「村」上有「於」

適往見女 廿四本「女」上有「其」

坐室中 廿四本「室」作「堂」

馬從之 廿四本「之」作「去」

果見女子坐室中 稿本·青本「室」作「堂」

倩人爬背 青本「爬」作「搔」

馬趨過 廿四本「趨」作「急」

及議聘金 稿本·鑄本·廿四本·青本無「金」

但求一二金 稿本·青本「求」下有「得」

裝女出閣 廿四本·青本「裝」作「妝」、稿本「閣」作

「閣」

乃納金 廿四本「金」作「聘」

酬媒氏及書券者 稿本·鑄本·廿四本·青本「酬」上有

「並」、廿四本無「氏」、並「及」作「与」

計三兩已足 廿四本「兩」作「金」

蓮船盈尺 稿本「船」作「舡」

乃悟狐言之有因也 廿四本「乃」作「始」

必不以我言為河漢也 鑄本無「為」

《翩翩》

羅子浮邠人 青本「邠」作「汾」

父母俱早世 廿四本無「俱」、並「世」作「亡」

園子左相 廿四本「子」下有「盟」



愛羅如己出 稿本「羅」作「子浮」、廿四本「羅」作「浮」、

稿本・鑄本・廿四本・青本「如」作「若」

娼返金陵 稿本「娼」作「倡」

居娼家半年 稿本「娼」作「倡」、鑄本無「家」

広創潰臭 青本「広」作「瘡」、鑄本・廿四本「創」作

「瘡」

逐去 稿本作「而出」、鑄本作「逐而去」、廿四本作「遂

逐而出」、青本作「逐而出」

見輒遙避 廿四本「見」下有「之」、並「避」下有「去」

乞食而西 稿本・鑄本・廿四本・青本「而西」作「西

行」

漸至郊界 廿四本「至」作「近」、青本「郊」作「汾」

敗絮膿穢 廿四本・青本「膿」作「濃」

日既暮 鑄本「既」作「就」

生喜從去 青本「去」作「往」

石梁駕之 廿四本「駕」作「架」

光明徹炤 廿四本・青本「炤」作「照」

濯之創当愈 鑄本・廿四本「創」作「瘡」

開幃弘褥 廿四本「幃」作「帳」、並「褥」作「榻」

請即眠 廿四本「即」作「先」

覺創瘍無苦 鑄本・廿四本「創」作「瘡」

既醒攀之 鑄本・青本「攀」作「摸」、廿四本「攀」作

「捫」

則綠錦滑絕 青本無「則」

皆如真者 廿四本「皆」作「俱」、並「如」作「若」

貯佳醞 廿四本「醞」作「釀」

輒復取飲 廿四本無「復」、並「飲」下有「之」

創痂尽脱 鑄本・廿四本「創」作「瘡」

快活死 廿四本「死」下有「矣」

女迎笑曰 廿四本無「笑」

花城娘子 稿本無「花」

吹送來也 稿本・鑄本無「來」

又一小婢子 鑄本「又」作「有」

花娘子瓦窰哉 廿四本「瓦」上有「真」

方鳴鳴睡卻矣 稿本·鑄本·青本「鳴鳴」作「鳴之」

年二十有三四 廿四本「年」上有「女」、稿本·青本「二

十」作「廿」

剝果誤落案下 廿四本「果」作「菓」

俯地佻拾果 稿本·青本無「地」、廿四本「果」作「菓」

陰捻翹鳳 廿四本「陰」上有「而」

自視所服 稿本·鑄本·廿四本·青本「視」作「顧」

駭絕 稿本·鑄本·廿四本·青本「駭」上有「幾」

花城坦然笑謔 稿本·青本無「花」

殊不覺知 廿四本「殊」下有「若」、並無「知」

突突怔忡間 廿四本「突突」上有「生」

衣已化葉 廿四本「已」作「復」

移時始復變 廿四本無「始」

花城笑曰 稿本·青本無「花」

而家小郎子 廿四本「而」作「爾」

若弗是醋葫蘆娘子 廿四本「弗」作「不」

入雲霄矣 稿本·鑄本·青本「矣」作「去」

便值得寒凍殺 稿本·青本「值」作「直」、廿四本「殺

作「死」

懼遺誚責 廿四本「懼」上有「生」、稿本·青本「遺

作「貽」

晤对如平時 鑄本「時」作「居」

乃取落葉 青本「收」下有「拾」

蓄旨御冬 廿四本「旨」作「之」

顧生蕭縮 廿四本「蕭」作「蕭」

温煖如襦 鑄本·廿四本「襦」作「繻」

輕鬆如新錦 稿本·鑄本·廿四本·青本「如」上有「常」、

稿本·廿四本·青本「錦」作「綿」

極慧美 稿本·鑄本「慧」作「惠」

日在洞口 稿本·鑄本·廿四本·青本「口」作「中」

遂与花城訂為婚好 稿本「花」作「江」、稿本·鑄本·

廿四本·青本「婚」作「姻」

臘故大高 廿四本「故」作「固」、並無「大」

待保兒婚後 稿本「婚」作「昏」

取葉写書 青本「取」作「以」

無憂至台閣 青本「至」上有「不」

容光炤人 廿四本・青本「炤」作「照」

新婦孝 廿四本「孝」上有「最」

花城已至 廿四本「花」上有「而」

涕各滿眶 廿四本「滿」作「盈」

老婦林下 鑄本「老婦」作「婦老」

意侄已死 鑄本・廿四本・青本「侄」作「姪」

悉蕉葉 廿四本「悉」下有「成」、青本「蕉」上有「芭」

蒸蒸騰出 稿本・鑄本・青本「出」作「去」、廿四本「出」

作「起」

黃葉滿徑 稿本・鑄本・廿四本「徑」作「逕」

洞口雲迷 稿本・鑄本・廿四本「雲」作「路」

餐葉衣雲 廿四本「餐」作「食」

雖無城郭人民之異 稿本・鑄本・青本「城郭人民」作

「人民城郭」、廿四本此句作「全無人事之擾」

而雲迷洞口 廿四本「而」上有「亦何幸歟」

真劉阮返棹時矣 鑄本「返」作「反」

校勘の結果を以下に記す。

(一) 慶応本十七篇の対校本に於ける分布は左記の通りである。数字は巻数を表わし(稿本は現存四冊の冊次を記す)、「欠」は当該作品を収録しない、或いは現存しないことを表わす。なお、《審鑑》篇は対校本では《宮夢弼》篇の附則に当たる。

《審鑑》 稿本欠、鑄本3、廿四本6、青本6

《諭鬼》 稿本2、鑄本3、廿四本7、青本欠

《遵化署狐》 稿本欠、鑄本2、廿四本4、青本欠

《汾州狐》 稿本欠、鑄本2、廿四本5、青本14

《巧娘》 稿本欠、鑄本2、廿四本5、青本2

《真令》 稿本欠、鑄本2、廿四本5、青本欠

《珠兒》 稿本1、鑄本2、廿四本4、青本2

《海公子》 稿本1、鑄本2、廿四本3、青本13

《胡四姐》 稿本1、鑄本2、廿四本4、青本2

《張老相公》 稿本1、鑄本2、廿四本3、青本14

《祝翁》 稿本1、鑄本2、廿四本4、青本2

《犬灯》 稿本2、鑄本3、廿四本7、青本6

《九山王》 稿本欠、鑄本2、廿四本4、青本13

《毛狐》 稿本2、鑄本3、廿四本7、青本6

《黒獣》 稿本2、鑄本3、廿四本7、青本14

《翩翩》 稿本2、鑄本3、廿四本7、青本7

《聶小倩》 稿本1、鑄本2、廿四本3、青本2

(二) 慶応本と各対校本との字句の異同を数量的にみると、手稿本及び鑄雪斎鈔本については全体を通じて数量的傾向が概ね一貫しているが、二十四卷鈔本については作品により著しく異なる。(例えば、《聶小倩》《胡四姐》等では二十四卷鈔本との異同が少なく、《翩翩》《毛狐》等では逆に多い。) 青柯亭刻本については各篇とも比較的異同が多い。

(三) 慶応本には特に甚しい字句の改鼠や削除の跡はみられない。同音・類義の文字に変えたもの、或いは文字の倒置・遺漏など些細な異同が大半を占める。

(四) 慶応本には書写した原本に於ける虫喰いなどの欠損を示す丸枠が四篇計十五箇所にみられるが、この丸枠のある四篇(《遵化署狐》《巧娘》《呉令》《九山王》)はいずれも手稿本が現存しない。

(五) 慶応本には清朝皇帝の諱を欠筆や代字によって避けた情況はみられない。

(六) 慶応本には「難(難)」、「犹(猶)」、「无(無)」など俗字・略字が多い。

(七) 慶応本の筆跡は十七篇を通じて一貫しており、ある一人の書写によるものである。

総括的にみると、慶応本は字句の異同からは手稿本・鑄雪斎鈔本・二十四卷鈔本・青柯亭刻本のいずれにも特に顕著

な類似性を示さず、これらとは別系統の鈔本と考えざるをえないように思われる。紙の年代の鑑定では、康熙末から乾隆末にかけてのものと推定されており、手稿本との時間的距離が極めて近く、また、前述の丸棹のある作品に限っていずれも手稿本が現存しないことは、手稿本との何らかの密接な関係を示唆するものであり、こうした点に慶応本の資料的価値をみることができよう。ただ、現存の篇数が僅か十七篇であり、『聊齋志異』全体の四百数十篇に対して余りに少なすぎるのが遺憾である。しかし、孫錫嘏の跋文には「数十篇」とあることから、聊齋文庫に蔵する以外にまだ他処に現存する可能性も残されてはいる。さらに、山東省博物館にはまだ影印出版のされていない極めて貴重な康熙年間の鈔本残巻が所蔵されており<sup>(4)</sup>、これとも対校する機会が得られることが望まれる。

〔注〕

- (1) 藤田祐賢氏の調査によれば、いずれも偽刻印である。同氏「伝蒲松齡著『青雲集』『知命集』について」(『国学院雑誌』第八十六卷第十一号)参照。
- (2) 跋文は次のようにいう。『余於漸達蒲表侄書笥中得祖志異原稿一卷、舒而觀焉、竟被鼠蠹傷之過半、今由殘缺章幅中抉選整片最佳者、僅此數十篇、裝訂成冊、庶幾以伝永久、免作散紙矣』。(部分)
- (3) 手稿本は一九四八年に遼寧省西豊県で発見され、一九五五年に北京・文学古籍出版社から影印出版されている。なお、孫錫嘏の跋文中にすでに誤って「志異原稿」の四字がみえる。
- (4) 任篤行「一函不同尋常的『聊齋志異』旧鈔」(『蒲松齡研究集刊』第一輯)参照。

〔附記〕 慶応本の紙質等について、慶応義塾大学法学部大柳英二教授のご教示を得た。この場をかりて特に謝意を表したい。